

令和元年度病害虫発生予報第10号

令和元年12月26日
愛知県 県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	コナガ	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
トマト (施設)	疫病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや多い	県全域	12月下旬の発生量は平年並 1月の日照時間は少ないか平年並	± ±～+
	葉かび病	やや多い	県全域	12月下旬の発生量は平年並 1月の日照時間は少ないか平年並	± ±～+
ナス (施設)	灰色かび病	やや多い	県全域	12月下旬の発生量は平年並 1月の日照時間は少ないか平年並	± ±～+
	ミナミキイロ アザミウマ	少ない	県全域	12月下旬の発生量は少ない	—
	ハダニ類	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	やや多い	県全域	12月下旬の発生量は平年並 1月の日照時間は少ないか平年並	± ±～+
	うどんこ病	やや少ない	県全域	12月下旬の発生量はやや少ない	—

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キュウリ (施設)	灰色かび病	やや多い	県全域	12月下旬の発生量は平年並 1月の日照時間は少ないか平年並	± ±～+
	ミナミキイロ アザミウマ	やや少ない	県全域	12月下旬の発生量はやや少ない	－
イチゴ (施設)	灰色かび病	多い	県全域	12月下旬の発生量はやや多い 1月の日照時間は少ないか平年並	＋ ±～＋
	うどんこ病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

〔トマト、ナス、キュウリ、イチゴ・灰色かび病〕

余分なかん水を避けるなど湿度を必要以上に上げないようにしましょう。発病前から、ジャストミート顆粒水和剤（ミニトマトを除く）などで予防散布しましょう。発病が見られるほ場では、発病果や発病葉は速やかに取り除き、ピクシオDFなどで防除しましょう。

〔トマト・葉かび病〕

スコア顆粒水和剤（ミニトマトを除く）やシグナムWDGなどで防除しましょう。薬剤耐性菌の発生を防ぐため、作用機構が異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

〔キュウリ・べと病〕

過剰なかん水は避けましょう。ザンプロDMフロアブルやゾーベックユニベルなどで防除しましょう。

・留意事項

イチゴのハダニ類の発生量は平年並ですが、多発しているほ場もあります。春先、気温が高くなると多発しやすくなります。多発すると防除が難しくなるので、ハダニ類を見つけた場合は早めに防除しましょう。訪花昆虫や天敵を導入している、あるいは今後導入を予定しているほ場では、それらへの影響も考えて農薬を選定してください。

トマトでは、すすかび病の発生量が多いほ場があります。多湿条件下で多発するので、湿度管理を適切に行いましょう。農薬は葉裏にもかかるよう、丁寧に散布しましょう。トマト黄化葉巻病の発生量は多くはありませんが、発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取り、適切に処分しましょう。タバココナジラミは低密度でもトマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。

キュウリでは、ミナミキイロアザミウマがキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取って適切に処分しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台12月26日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、高い確率70%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%
 〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%
 〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%